

オトコエシ

Patrinia villosa

オミナエシ科



オトコエシ

名前の由来

オミナエシ(女郎草)に対して茎が太く、全体に剛強で男性的な様子から名付けられた。エシはメシともいい飯が訛った言葉といわれる。黄色いオミナエシを粟花、白いオトコエシを米花とし、対にして女郎草、男郎草の漢字をあてた。漢字名：男郎草

形態的特徴

高さ0.6~1mくらいで茎には下向きの白色粗毛があり、全体に白っぽく見える。根元からツル状に這う長い枝を出し、新苗をつくる。葉は対生し、羽状に深く裂け、両面に粗毛がある。花は小さく径4mm、クリーム味がかかった白色で、

上部で枝分かれして真っ直ぐ伸びた茎の先に多数つく。

類似種と見分け方：オミナエシ。

花が無い時には両者はよく似るが、オミナエシは全体に黄緑色に見える。また花は鮮黄色になる。

生育環境・分布

林縁や草原、河川敷などの日当たりのよい場所に生育する。

分布：国外分布は、朝鮮・中国。

国内分布は、北海道から奄美。北海道内分布は、全道。

十勝地方では、林縁や草原、河川敷などの日当たりのよい場所で普通に見られる。

生活史

開花時期：8~9月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■匂いが腐った豆醬に似ているため、中国では敗醬の名がある。薬として消炎や排膿、できもの、浮腫などに用いられた。

■十勝地方のアイヌ語では「タフカラムン(本別)」、「ユッタラ(広尾)」という

配慮事項

生育している環境全体が重要である。



オトコエシ。葉は三つ葉あるいは羽状に深く裂ける、茎に2つずつ向かい合ってつく(対生)

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期					■							
結実期						■						

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981

「名前といわれ 野の草花図鑑3」杉村昇 偕成社 1987

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ